

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771400482		
法人名	特定非営利活動法人 ほととぎすの会		
事業所名	グループホーム ほととぎす		
所在地	香川県高松市川東下672-5		
自己評価作成日	平成29年12月15日	評価結果市町受理日	平成30年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋建ての造りで、天窓から明るい日差しが入り込み、温かみのある建物になっている。敷地内には畑があり、季節の野菜を植えて収穫し、食材としている。屋内には中庭があり、開放感にあふれている。いつでもご利用様が自由に入りができている。また、日々の生活の中で、ご利用様やご家族様の願いや想いに寄り添いながら、ご利用様が活躍できる場面を多く作り、ほととぎすに来てよかったと思われるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

近隣には大型スーパーがあり、一区画外れるとのかな田園が広がる立地で、周囲の環境に溶け込んだ木造平屋建の事業所がある。玄関までには駐車場や畑があり、木々も植えられている。建物内部は木材を多用して、天井が高く広々としている。リビングには利用者がつどい、思い思いに過ごしている。ユニットでは職員が利用者と一緒に歌ったり笑ったりと賑やかに過ごしている。職員は利用者とのコミュニケーションを取りながら、一人ひとりに配慮している。グループホームの理念を大切に、利用者が安心して過ごせるよう職員も利用者第一に働いている。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町2360-111		
訪問調査日	平成30年2月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム名にちなんだ理念を作り、毎日復唱して職員間の意識を高めている。また、その日の目標を一人ずつ発表し、ご利用者様とのコミュニケーションをどのように図るのかを意識して、実践してもらっている	所々に理念を掲示し、朝夕のミーティングで理念を唱和している。一人ひとりの職員は一日の目標を発表し終業時には振り返りを行う。日々職員の意識を高める工夫が見られる	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の水路清掃、地元の幼稚園や保育所との交流会、毎月小学校の登校時の挨拶運動に参加している。また、毎月、地域の方がボランティアで馴染みの歌を唄ったり、フラダンスと一緒に踊って楽しんでいる	自治会に加入はしていないが、道路や水路の清掃には協力しており、小学校校門前でのあいさつ運動やこどもSOS、中学生の福祉体験などにも参加している。また、地域のボランティアグループと交流がある	地道な地域への働きかけは認められる。運営推進会議でも協議されているので、さらに地域に出たいけるような継続した行動に期待します
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様と一緒に挨拶運動に参加したり、地元の子供の緊急受け入れ先として「こどもSOS」に参加している。また中学校の福祉体験では、生徒を受け入れ、認知症の人たちと関わりを持ち、コミュニケーションについて学んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者様の状況やサービスの向上に努めている。また、アドバイスをもらった意見などを全員で話し合い、実施するための具体案を検討し、実施している	運営推進会議は定期的に行われ、グループホームの報告や議題が検討されている。家族や利用者の参加もみられるが、全体的に参加者が少ない状況である	更に会議に地域の方や家族等多くが参加し、活発な意見交換及びサービス向上に繋がる場となるよう開催時間や声掛けの工夫などに期待したい
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも相談をしたり、ほととぎす新聞を作成し、行事などにも参加してもらえるように声掛けをしている	運営推進会議等にて日頃から関係を保ち、市からの周知や連絡の機会となっている。また相談事や事務連絡には出向いたり、電話をして連携が図られている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開いて、日頃気になる言葉づかいや介助方法について話し合い、意見を出している。改善すべき点を見直して、身体拘束を行わないケアをしている	利用者の権利擁護として、虐待に当たる言葉や介護上問題ある事案等が日頃から話し合われている。施設全体施錠は見当たらない。外出したい利用者には職員が見守りのため付き添うケアが実践されている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての勉強会を行い、虐待防止マニュアルを作成し、職員全員で話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の勉強会を行い、成年後見制度について学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの契約書、重要事項説明書を文章で説明している。ご利用者様に不安や疑問などがないように十分説明し、納得してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様の意見が反映されるように意見箱を設置したり、ご家族様が面接時に気軽に話せるように、信頼関係づくりに努めている	家族の面会が多く、気軽に話せる関係が構築されている。毎月の請求書郵送時には、お便りが同封されている。イベントや行事には家族等の参加があり、意見を聞く機会となっている。出た意見は上司に報告し、職員に連絡ノートに記載し情報が共有されている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回全体のミーティングを開き、個別の面談を行うなどで職員の意見を聞き、働きやすい環境づくりに努めている	普段の会話やミーティング・会議で出た意見やアイデアは施設長や理事長が職場に一緒にいるので、すぐ伝わり反映されている。個人面談もあり良く話を聞き、職員の業務や悩みがよく理解されている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に事業所にきており、ご利用者様と過ごしたり、職員の業務や悩みを把握している。職員の資格取得に向けた支援をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識しており、経験や習得度に合わせてホームで勉強会を開催している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームとご利用者様も交えた相互訪問を定期的に行っており、日頃のご利用者様への関わり方を学んだり、行事への参加等を行い、サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時にご本人様やご家族様から現在までの生活歴や得意なこと、楽しみなどを聞き、ご利用者様が安心して生活が送れるような環境づくりと他の利用者様や職員との関係性にも気を付けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や困っていること、不安に思っていることをご家族様の立場に立ち、ご家族様が求めているものを理解して、ご家族様の想いを十分に聞き、ご家族様の気持ちを受け止めるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、何に困っているのかを見極めて、できる限り、柔軟な対応がとれるようにしている。利用開始前までに気軽に来れるように働きかけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の声に耳を傾けて、信頼関係が築けるように努めている。職員もご家族と同じような関係づくりができるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様の想いに寄り添いながら、ご家族様とともにご利用者様を支え、ご利用者様と信頼関係が築けるように話しやすい環境を心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の馴染みのある人や近所の方など関わりが持てるように努めている。墓参りなど行きつけの場所に出掛けられるようにしたり、外出や外泊などご家族様の協力を得ながら支援している	家族や知人等の面会を受け入れゆっくり過ごせるよう配慮されている。お墓詣りや行きつけの場所には家族らの協力により出かけ良い気分転換の機会となっている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を職員が把握しており、ご利用者様同士がうまくコミュニケーションが図れるように職員が調整役をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も地域包括支援センターやケアマネージャーなどに連絡し、スムーズに新しい生活に慣れるように相談や支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの想いを汲み取り、その人が暮らしてきた生活を尊重しながら話を聞くように努めている。また、意思疎通が困難な場合でもしぐさや表情を観察し、本人様本位になるように努めている	家族や本人等から聞き取りを行うとともに、毎日記載された個別記録から本人に関する情報が収集されている。日々に職員が寄り添う見守りが行き届いており一人ひとりの状況が把握されている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から生活歴や暮らし方などを聞いて生活しやすい環境づくりに努めている。また、新しく得た情報は職員全員で共有するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日課やその人ができる能力把握して、出来る事を支援している。また、少しの変化にも気づけるように心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様がより良く暮らせるように、ご本人様やご家族様から意向を聞き取り、職員間で共有している。また、チームで課題やケアのあり方を話し合い意見を出し合っている。話し合った意見を共有し、介護計画を作成している	2カ月ごとにモニタリングを行い、本人や家族、職員などが意見を出し合い計画が作成されている。計画は個別記録に記載され、職員が共有し介護に活かされている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、ご利用者様の様子や変化などを観察し、個別記録に記入している。知り得た情報などはノートに記入して職員間で共有しながら、ケアに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状態やご家族様の意向を聞いて、ホーム内で食事会を開いている。外で食べることにより、利用者様の笑顔も見られている。また、外出や外泊などもご家族様に協力を求めている		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日ホーム周辺に散歩に出掛け、地域の人に挨拶やコミュニケーションがとれるように取り組んでいる。また、小学校の挨拶運動にも参加し、地域での交流も図れるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、往診に来てもらっている。かかりつけ医とも連携を図り、時間外や休日でも見てもらえるように体制をとっている	2週間に1回嘱託医の往診があり、かかりつけ医となっている。緊急時は、時間外や休日でも診てもらえる。他の医療機関も往診があり、受診が必要になれば家族付き添いで対応している。受診の結果は連絡されている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の状態を観察し、少しでも体調の変化が見られる時は、すぐに相談している。また、受診が必要な時には、受診するようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの経過を病院に報告して、病院との連携を図っている。また、入院中もご利用者様の状態や様子を聞いて、情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様に終末期の過ごし方の意向を聞いて、終末期の方針を確認するようにしている。また、ご利用者様が重度化してきた時は、病院・ご家族様・看護師などと相談しながら、ご本人様が望む暮らしが出来るように支援している	入居時にできる限り重度化や終末期についての話し合いが持たれ、意向や方針が確認されている。実際重度化した時には病院や家族、看護師と相談しながら、本人の望む暮らしが出来るよう支援し、看取りも行われている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署の協力を得て、職員全員で救命救急の実施訓練の講習を受けて、緊急時に対応が出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、そのうち1回は、消防署の方を招き、消防訓練を行っている。その際には、地域の方にも声をかけて協力を図っている。また、ほととぎす独自のマニュアルを作成し、避難場所まで歩いて、危険箇所がないかの確認も行っている	ほととぎす独自のマニュアルを作成し、避難場所まで確認のために実際に歩いたり、火災訓練では訓練を告知して近隣に協力を依頼するなど工夫がなされている。避難用食料や携帯用具もすぐ出せるよう準備されている	運営推進会議で地域の消防団に働きかけるなどの提案がみられる。更に地域との協力体制が深まり、災害に強い施設が構築されるよう期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会などを通して職員の意識向上を図り、日常の関わりの中で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経験を積んだ職員が多く、一人ひとりへの働きかけを熟知している。またユニットにより利用者の個性が違うために異なったグループワークも実施されている。トイレや風呂場はリビングから見渡せず、プライバシーが保たれる作りとなっている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いや希望を汲み取りながらしえんを行っている。また、自己決定が困難なご利用者様はしぐさや表情で汲み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけている。個別での支援を行い、ご利用者様が何を望んでいるのかを汲み取るようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った洋服選びや整髪を行い、身だしなみに気を付け、おしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で採れた野菜を食材に取り入れている。ご利用者様と一緒に野菜を切ったり、料理の味見をしてもらったりしている。盛り付けや後片付けも一緒に行っている。また、食事は、ご利用者様と同じテーブルに座り、会話を楽しみながら食べている	献立は施設長が考え、基本に忠実に利用者 と職員が協力して準備や調理、片づけ等が行われている。畑から収穫した野菜も食卓に並び、心づくしの食卓を演出している。食事も同じテーブルでみんな一緒に味わい、食事を楽しんでいる	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量のチェックを行い、1日の水分量のチェックも行っている。あまり水分を摂らないご利用者様には、好みの飲み物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、清潔を保っている。口腔ケア後には、残渣物がないか、確認している		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、排泄のチェック表をつけている。定期的にトイレの声掛けやトイレ誘導を行い、トイレで排泄が出来るように支援している	日頃の個人記録から排泄パターンを把握して日中はトイレで排泄が出来るよう配慮されている。夜間は個々の睡眠時間を確保しながら、ポータブルトイレへ誘導したり、尿取りの交換をして、オムツにならないよう工夫がなされている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分のチェック表をつけ、水分を摂ってもらったり、繊維質の食べ物を食事に取り入れている。同時にお腹のマッサージを行うなど、便が出やすいように促している。毎日、便の確認をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと気持ちよく入浴ができるように声掛けを行っている。入浴時には、楽しい会話ができるように心がけている	基本では入浴は週2回と決めているが、本人の要望等に応じて毎日入浴の人もいる。一人ひとりに時間をとってゆっくりお風呂に入れるよう配慮がなされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を決めて休んでもらっている。夜間は、安心して眠れるような声掛けを行い、気持ちよく眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を把握できるようにしている。服薬時には、名前を確認してから、ご本人様に手渡ししている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝いや洗濯などを一緒に行い、毎日の生活の中で、活躍できる場所を提供し、一人ひとりの力が発揮できるように努めている。またカラオケや散歩など、気分転換も図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、散歩に出掛けて季節を感じてもらったり、ご家族様の方にも協力をしてもらい、外出や外泊を行っている	時候の良い季節には、毎日近所に散歩が行われている。一緒にスーパーやコンビニまでの買い物や、散策など良い気分転換となっている。重度化で、外出の頻度が減った利用者等には、家族の協力を得るなど工夫して支援が継続されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、欲しい物を買っている。お金は、ご家族様から預かっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望により、ご家族様に連絡を取っている。話が終わると、職員と代わってご家族様と話すなどの対応をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、共用の空間にはテレビやソファを置いて、くつろぎやすい空間づくりをしている。また、季節感を表す壁紙を貼ったり、手作りカレンダーで日付の確認をしている。居室には、ご利用者様が塗ったカレンダーを貼っている	高い天井の天窗や中庭から風や光が入るリビングでは、思い思いに過ごせるようなテーブルやいす・ソファがあり、日中はみんなで集まりゲームや歌唱を楽しんでいる。一人ひとりがよく話しをし、よく笑っている様子はにぎやかで活気に満ち溢れている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファに中の良いご利用者様同士で座って話をしたり、カラオケなどを楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の希望により、毎日自宅で拝んでいたご本尊様を持参され、毎日水を交換したり、お経を唱えている方がいる。ご本尊様があることで、ご本人様も安心して過ごすことができている	広い窓のそばに木製の介護ベッドがあり、建付けの広い引き戸の物入がある居室には思い思いにカレンダーや写真が飾られている。私物の持ち込みは可能で、本人の思い入れのある物が持ち込こまれ、自分だけの部屋が演出されている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を把握して、支援を行っている。出来る事を見つけて自信を持って出来るように、努めている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム名にちなんだ理念を作り、毎日復唱して職員間の意識を高めている。また、その日の目標を一人ずつ発表し、ご利用者様とのコミュニケーションをどのように図るのかを意識して、実践してもらっている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の水路清掃、地元の幼稚園や保育所との交流会、毎月小学校の登校時の挨拶運動に参加している。また、毎月地域の方がボランティアで馴染みの歌を唄ったり、フラダンスと一緒に踊って楽しんでいる
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様と一緒に挨拶運動に参加したり、地元の子供の緊急受け入れ先として「こどもSOS」に参加している。また中学校の福祉体験で生徒を受け入れ、認知症の人たちと関わりを持ち、コミュニケーションについて学んでいる
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者様の状況やサービスの向上に努めている。また、アドバイスをもらった意見などを全員で話し合い、実施するための具体案を検討し、実施している
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも相談をしたり、ほととぎす新聞を作成し、行事などにも参加してもらえるように声掛けをしている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開いて、日頃気になる言葉づかいや介助方法について話し合い、意見を出している。改善すべき点を見直して、身体拘束を行わないケアをしている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての勉強会を行い、虐待防止マニュアルを作成し、職員全員で話し合っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の勉強会を行い、成年後見制度について学んでいる
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの契約書、重要事項説明書を文章で説明している。ご利用者様に不安や疑問などがないように十分説明し、納得してもらっている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様の意見が反映されるように意見箱を設置したり、ご家族様が面接時に気軽に話せるように、信頼関係づくりに努めている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回全体のミーティングを開き、個別の面談を行うなどで職員の意見を聞き、働きやすい環境づくりに努めている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に事業所にきており、ご利用者様と過ごしたり、職員の業務や悩みを把握している。職員の資格取得に向けた支援をしている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識しており、経験や習得度に合わせてホームで勉強会を開催している
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームとご利用者様も交えた相互訪問を定期的に行っており、日頃のご利用者様への関わり方を学んだり、行事への参加等を行い、サービスの質の向上に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時にご本人様やご家族様から現在までの生活歴や得意なこと、楽しみなどを聞き、ご利用者様が安心して生活が送れるような環境づくりと他の利用者様や職員との関係性にも気を付けている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や困っていること、不安に思っていることをご家族様の立場に立ち、ご家族様が求めているものを理解して、ご家族様の想いを十分に聞き、ご家族様の気持ちを受け止めるようにしている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、何に困っているのかを見極めて、できる限り、柔軟な対応がとれるようにしている。利用開始前までに気軽に来れるように働きかけている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の声に耳を傾けて、信頼関係が築けるように努めている。職員もご家族と同じような関係づくりができるように努めている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様の想いに寄り添いながら、ご家族様とともにご利用者様を支え、ご利用者様と信頼関係が築けるように話しやすい環境を心がけている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の馴染みのある人や近所の方など関わりが持てるように努めている。墓参りなど行きつけの場所に出掛けられるようにしたり、外出や外泊などご家族様の協力を得ながら支援している
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を職員が把握しており、ご利用者様同士がうまくコミュニケーションが図れるように職員が調整役をしている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も地域包括支援センターやケアマネージャーなどに連絡し、スムーズに新しい生活に慣れるように相談や支援に努めている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いや意向を聞き、穏やかに生活ができるように努めている。また、意思疎通が困難な場合は、手段として、ジェスチャーなどを交えながら、その人らしい生活が送れるようにしている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴や暮らしぶりなど、ご本人様やご家族様に聞き、その人らしい生活が送れるように環境づくりに努めている。また、知り得た情報は職員全員で共有するようにしている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日課やその人ができる能力把握して、出来る事を支援している。また、少しの変化にも気づけるように心がけている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様がその人らしい暮らしが送れるように、ご家族様や各関係者、ご本人様の思いも汲み取り、介護計画に反映し、介護計画に役立てている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で、気づきや工夫した事などを職員間で共有できるノートに記録し、申し送りして、情報を共有し、介護計画に役立てて、実践している
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の希望などを聞きながら、その時々で、ご家族様の協力のもと、外出や外泊を行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の奉仕作業や地元の保育所との交流会、中学校の職場体験の受け入れなどを行っている。また、ホーム近くのスーパーでの買い物など、ご利用様が地域と交流ができるように努めている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度の往診とかかりつけ医師との連携をとり時間外、休日でも電話連絡により相談出来る体制と取っている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を細かく記録し、看護師に体調の変化を報告している。また、病院受診が必要な時は、主治医に相談し、受診するようにしている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの状態を細かく記録し、病院への報告や連絡を行い、入院中もご利用様の様子を聞き、情報交換を行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族様に終末期の過ごし方の意向を聞き、終末期の方針を確認するようにしている。また、ご本人様が重度化してきた時は、ご家族様の意向を聞き、主治医、看護師などと相談しながら、ご本人様の望む暮らしが出来るように努めている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回、職員全員で救命救急の講習会を受け、急変などに備えている。また、勉強会などで緊急時の対応の仕方を勉強している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、うち1回は、消防の方が来られている。夜間を想定した避難訓練を行い、地震などの災害時に備え、ほととぎす独自のマニュアルを作成し、避難場所まで歩き、危険個所の確認を行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会では常に利用者の尊厳、プライバシーについて職員間でケアのあり方、気になる点を意見交換、職員の意識確認を行い日々の業務に生かせるようにしている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様が自己決定できるように本人の気持ちに寄り添い、思いやりや希望が言える環境を作り自己決定が出来ないご利用者様にはその時々状態を常に観察しながら支援している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用様が自分らしい暮らしが送れるように個々に対応し、その人に合わせた時間や空間を支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用様と一緒に好みの洋服選びをしている。好みの色やスタイルに合わせご家族にも面会時本人の好みなど聞いている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時々季節が感じられるように季節の野菜、果物を取り入れたメニューを工夫し、食事の際も季節やメニューについて楽しんで食事ができる話題作りを心がけている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を記録し、その日の体調に合わせ食事の形態や量を調整するなどの対応を行っている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日後口腔ケアを行い清潔保持に努めている。口腔ケア後は口腔内の状態を確認している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を付け、個々の排泄のリズムを管理し定時にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るように支援している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表から排泄の有無を確認し便秘の原因を探り、ご家族や主治医とも相談し乳製品の取り入れや水分を多く取り入れる工夫また日中の活動量の支援をしている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用様がゆっくりと入浴して頂けるように楽しい会話作り入浴時間、湯温等個々に合わせ対応している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調合わせ安心して休息、安眠できる支援を心がけている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬の内容について理解し、管理している。服薬時は本人確認を必ず行い職員が手渡し、服薬の確認を行っている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で喜びや達成感が感じられるように食事の手伝いや掃除等活躍できる場所を提供している。また買い物や散歩等ホーム外での気分転換を図っている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用様の希望や思い出の場所等へご家族の協力を頂き支援を行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことができる利用者様には、外出時財布にお金を入れ自分で支払いをして頂き見守りを行っている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族への電話を希望されている時は職員が電話をかけ話をしてもらっている。また電話が終わると職員が代わり対応している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通空間ではくつろいで生活がして頂けるように季節に合った絵や花を飾を飾っている。また中庭に面した場所にテーブル、椅子を置き自然の光やぬくもりが感じられるように工夫している
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通空間では気の合う利用者様同工会話を楽しんだり、テレビが観られるようにその時々でテーブルや椅子の配置を変えている。また一人で過ごしたい時には別の空間にソファを置き独りでくつろげるよう工夫をしている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でご利用様がくつろげるように自宅で犬など飼われていた方等は、愛犬に代わり御家族が犬のぬいぐるみを持参され、居室へ戻ると愛犬の名を呼び落ち着いて生活を送れている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様一人、ひとりの出来る事を職員が把握しており、気づき等職員間で共有し穏やかに生活が送れるように支援している